

喜びの贈りもの（新しき世界へ 1972 年 12 月号）

桜沢如一

おくりものをする、ということは「しあわせな自由な人」になる大切な条件です。これをしないで、自由で幸福な人になった人は、けっしてありません。そのおくりものというものは、金や物ばかりではありません。それよりも大切なものがあります。それはよろこびであります。では、いったい、どんな喜びをあげればよいのでしょうか？

この点については、はっきりしたことを教える人が少いのです。私は 60 年の体験から、はっきりといます。

一文もかけずに、一生喜ばれるおくりものがいちばんよろしい。長い時間と手間と金をかけるほど、おくりものとしては下手なのです。

しかし、初めから、こんなおくりものをばらまくことは誰にもできません。初めは、やはり力をこめ、金をかけ、心をこめ、不断に努力し、汗と脂をそそいで、長い年月をかけることです。そのうちに、おいおいと短い時間で、金をかけずに、より多くの人々に、より長く喜ばれるおくりものをばらまくことができるようになります。それには、全身、全力をぶちこんで、しかも、できるだけ多くの人々に、初めはつまらないものから、おいおい高価なものを、そして、しまいには、もっとも大切に、価なきものをおくりものにするということです。

自由と幸福は、100 パーセントふりまわさなかつたら、まったく価値のないものです。その自由と幸福のトレーニング(鍛練)も、喜びのおくりもの遊びです。できるだけ、いろいろなおくりものを、できるだけ多くの人にばらまくのです。おくりものといっても、金や物ばかりではありません。いつもニコニコとした顔を見せることも大きなおくりものです。誰でも笑顔を見れば、心がなぐさめられます。喜びを贈るからです。

はっきりした返事もよいおくりものです。美しい声、やさしい声、おかしみのある声もよいおくりものです。机の上でも、室の中でも、家の外でも、きちんと秩序をつけておくことは、見る人を何人でもさわやかに、ほがらかに、安らかにさせるから、大きなおくりものです。さわがしい音や、不愉快なセキや、鼻をすする音をたてることは、たいへんなマイナスのおくりものです。きたない格好をしているのも、よごれたシャツをきているのも、黒い手足をしているのも、マイナスの悪いおくりものです。その反対がプラスのおくりものです。

（『永遠の少年』(上)18～20 ページより）